

作成日：2010年8月25日

改訂日：2023年2月24日

安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称：ユニラント 55 バイオレット

整理番号：120128312

会社名：株式会社 ユニラント

担当部門：研究室

住所：東京都港区高輪 2-21-43

電話番号：03-5421-8266

FAX番号：03-5421-8470

推奨用途及び使用上の制限：塗料

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

物理化学的危険性：引火性液体 区分 4

健康有害性：眼に対する重篤な損害性又は眼刺激性 区分 2A

皮膚感作性 区分 1

特定標的臓器毒性（単回ばく露）区分 3（麻酔作用）

特定標的臓器毒性（単回ばく露）区分 1（肝臓 呼吸器）

環境有害性：水生環境急有害性 短期（急性） 区分 3

水生環境急有害性 長期（慢性） 区分 3

上記で記載が無い危険有害性は、区分に該当しない(分類対象外)か分類できない。

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語：危険

危険有害性情報：H227 可燃性液体

：H336 眠気又はめまいのおそれ

：H372 長期にわたる、又は反復ばく露による肝臓、呼吸器の障害

：H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

：H319 強い眼刺激

：H412 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

安全対策

：熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)

ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。(P261)

保護手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。(P271)

ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。(P260)

取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272)

- 保護手袋を着用すること。(P280)
 取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
 環境への放出を避けること。(P273)
- 応急措置** : 火災の場合 消火するために適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)
 吸入した場合 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
 気分が悪いときは医師に連絡すること。(P312)
 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。(P314)
 皮膚に付着した場合 多量の水と石鹼で洗うこと。(P302+P352)
 眼に入った場合 水で数分間注意深く洗うこと。
 次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
 その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合 医師の診察/手当てを受けること。(P333+P313)
 眼の刺激が続く場合 医師の診察/手当てを受けること。(P337+P313)
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364)
 特別な処置が必要である。(P321)
- 保管** : 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。(P403+P233)
 施錠して保管すること。(P405)
- 廃棄** : 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

化学名または一般名	濃度又は濃度範囲	化学特性	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法	安衛法	
界面活性剤及びその他の成分	40～50%	-	非公開	-	非公開
ジエチレングリコールモノブチルエーテル	30～40%	HOCH ₂ CH ₂ OCH ₂ CH ₂ OC ₄ H ₉	(2)-422	-	112-34-5
C. I. Pigment Violet 23	10～20%	-	(5)-3292	-	あり
硫酸バリウム	1～5%	BaSO ₄	(1)-89	-	7727-43-7
ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテル	1～5%	-	-	-	9036-19-5
水	<1%		非該当		7732-18-5

4. 応急措置

- 吸入した場合** : 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合** : 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
 多量の水と石鹼で洗うこと。
 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
- 眼に入った場合** : 眼の刺激が持続する場合、医師の判断、手当てを受けること。
 水で数分間注意深く洗うこと。
- 飲み込んだ場合** : 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

口をすすぐこと。
直ちに医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

- 消火剤** : 粉末消火剤、二酸化炭素、水噴霧、砂、一般の泡消火剤。
使ってはならない消火剤 : 棒状注水
特有の危険有害性 : 火災によって刺激性、腐食性及び／又は毒性のガスを発生するおそれがある。
 加熱により容器が爆発するおそれがある。
特有の消火方法 : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置**
 : 関係者以外は近づけない。
 作業者は適切な保護具（『8.ばく露防止及び保護措置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
 適切な保護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
- 環境に対する注意事項** : 環境中に放出してはならない。
 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材**
 : 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
 危険でなければ漏れを止める。
 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で覆い更にプラスチックシートで飛散を防止し、雨に漏らさない。
 除去後、汚染現場を水で完全に洗浄する。
 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
 乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。
 物質を吸込み又は掃き取って廃棄用容器に入れること。
- 二次災害の防止策** : 全ての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い**
- 技術的対策** : 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項 : 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。
 火気注意。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 環境への放出は避けること。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 飲み込みを避けること。
 皮膚との接触を避けること。
 排気用の換気を行うこと。
- 接触回避** 『10.安定性及び反応性』を参照。
- 保管**
- 安全な保管条件** : 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、

かつ天井を設けないこと。

保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。

保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適当な傾斜をつけ、かつ、適当なためますを設けること。

保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。

炎及び熱表面から離して保管すること。冷所、換気の良い場所で保管すること。

保管場所には、危険物を貯蔵し又は取り扱うために必要な採光、

照明及び換気の設備を設ける。

酸化剤から離して保管する。

安全な容器包装材料 : 消防法で規定されている容器を使用する

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	ACGIH
ジエチレングリコールモノブチルエーテル	-	-	TWA 10 ppm (IFV), STEL -
硫酸バリウム	-	-	TWA 5mg/m ³ (I)(E), STEL -

設備対策

高熱取扱いで、工程で蒸気、ヒューム、ミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

高熱取扱いで、工程でガスが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

高熱取扱いで、工程で蒸気、ヒューム、ミストが発生するときは、換気装置を設置する。

高熱取扱いで、工程でガスが発生するときは換気装置を設置する。

本製品を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗顔器と安全シャワーを設置すること。

全体または局所排気装置を用いる。

保護具

呼吸器の保護具

: 適切な呼吸器保護具を着用すること。

呼吸保護具を着用すること。

手の保護具

: 保護手袋を着用すること。

有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用することが望ましい。

眼の保護具

: 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）。

取扱いには保護メガネ等を着用することが望ましい。

皮膚及び身体の保護具

: 顔面用の保護具を着用すること。

化学薬品が浸透しない材質のエプロン等の着用、帯電防止機能を有する長袖等の衣類及び安全靴を着用することが望ましい。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 液体

形状 液体

色 紫色

臭い 微臭

融点/凝固点 データなし

沸点又は初留点及び沸点範囲 230 6% (ジエチレングリコールモノブチルエーテル)

可燃性 データなし

爆発下限界及び爆発上限界/ 可燃限界

下限 0.85%

引火点	上限 24.6% (ジエチレングリコールモノブチールエーテル)
自然発火点	105°C (クリーブランド開放式)
分解温度	223°C (ジエチレングリコールモノブチールエーテル)
分解温度	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	水に易溶
n-オクタノール/水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
密度/相対密度	1.08 (20°C)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 「化学的安定性」を参照。
化学的安定性	: 常温、常圧で安定
危険有害反応可能性	: 特記すべき反応性なし
避けるべき条件	: 高温及び凍結
混触危険物質	: 情報なし
危険有害な分解生成物	: 情報なし

11. 有害性情報

急性毒性

経口	急性毒性推定値が 5000mg/kg 超のため区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
経皮	急性毒性推定値が 5000mg/kg 超のため区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
吸入 (気体)	GHS 定義による気体ではない。(蒸気) 急性毒性推定値が 50000ppm 超のため区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
吸入 (粉じん、ミスト)	急性毒性推定値が 12.5mg/l 超のため区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
皮膚腐食性/刺激性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	眼区分 2A の成分合計が濃度限界 (10%) 以上のため、区分 2A とした。
呼吸器感作性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
皮膚感作性	区分 1 の成分が濃度限界 (1%) 以上のため、区分 1 とした。
生殖細胞変異原性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。 発がん性 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。

ユニラント 55 バイオレット

毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。	
生殖毒性 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。	
毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。	
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	
区分 3(麻酔作用)の成分合計が濃度限界 (20%) 以上のため、区分 3(麻酔作用)とした。	
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	
区分 1(呼吸器)の成分が濃度限界 (1%以上、10%未満) 範囲のため、区分 2(呼吸器)とした。	
区分 1(肝臓)の成分が濃度限界 (10%) 以上のため、区分 1(肝臓)とした。区分 1(呼吸器)の成分が濃度限界 (10%) 以上のため、区分 1(呼吸器)とした。	
誤えん有害性	動粘性率が不明のため、分類できないとした。
その他のデータ	CI Pigment Violet 23 の有害性情報
急性毒性	経口 (ラット) LD50 : > 5000mg/kg
皮膚刺激性	データなし
眼刺激性	データなし
発がん性	問題なし
変異原性	データなし
ジェチレングリコールモノブチルエーテルの有害性情報	
急性毒性	経口 (ラット) LD50 :5660mg/kg
経皮 (ウサギ) LD50	:2700mg/kg
皮膚刺激性	データなし
眼刺激性	データなし
発がん性	問題なし
変異原性	データなし
ジオキサジン化合物の有害性情報	
急性毒性	経口 (ラット) LD50 : > 2000mg/kg
皮膚刺激性	弱い刺激性あり(ラビット)
眼刺激性	弱い刺激性あり(ラビット)
皮膚感作性	感作性あり(モルモット)
発がん性	データなし
日本産業衛生学会許容濃度等委員会、OSHA、NTP、IARC;記載なし	
変異原性	陰性

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性 短期 (急性)

(毒性乗率 X100X 区分 1)+(10X 区分 2)+区分 3 の成分合計が濃度限界(25%)以上のため、区分 3 とした。

水生環境有害性 長期 (慢性)

(毒性乗率 X100X 区分 1)+(10X 区分 2)+区分 3 の成分合計が濃度限界(25%) 以上のため、区分 3 とした。

生態毒性	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データ不足の為分類できない。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	: 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処

分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国内規制

陸上規制情報 : 関連法規の規定に従う。
 海上規制情報 : 該当しない
 海洋汚染物質 : 非該当
 MARPOL73/78 附属書II : 非該当
 及びIBCコードによる
 ばら積み輸送される
 液体物質
 航空規制情報 : 該当しない
 緊急時応急措置指針番号 : なし

1 5. 適用法令

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有機物 (法第 57 条第 1 項、施行令第 18 条第 1 号、第 2 号別表第 9)
 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 第 1 号、第 2 号別表第 9)
 ジエチレングリコールモノブチルエーテル 法令指定番号 224の3(30 - 40%)
 毒物及び劇物取締法 非該当
 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法) 第 1 種指定化学物質 (法第 2 条第 2 項、施行令第 1 条別表第 1)
 (2023 年 3 月 31 日まで)
 ・ポリ (オキシエチレン) = オクチルフェニルエーテル 法令指定番号 408 (1.8%)
 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法) 第 1 種指定化学物質(法第 2 条第 2 項、施行令第 1 条別表第 1)
 (2023 年 4 月 1 日以降)
 ・ジエチレングリコールモノブチルエーテル 管理番号 : 627 (34%)
 ・ポリ(オキシエチレン)=アルキルフェニルエーテル 管理番号 : 408 (1.8%)
 消防法 : 第 4 類 第三石油類 (水溶性)

1 6. その他の情報

本データシートは下記JIS規格に準じて作成しています。

JIS Z 7252 2019 GHSに基づく化学品の分類方法

JIS Z 7253 2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS)

参考文献 : GHS 対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針 (日本化学工業協会)
 GHS 分類結果データベース ((独) 製品評価技術基盤機構 (NITE))
 許容濃度の勧告 (日本産業衛生学会 2019 年度)
 ACGIH (2019)

その他

- : 本データシート」は、その製品を代表する値であり、安全や品質の保証、規格ではありません。本製品を取り扱う場合は記載内容を参考にして、使用者の責任において実態に即した安全対策を講じて下さい。
- : 本データシートは日本国内法を基に作成しています。本製品及び本製品を含む化学物質を輸出する際には、外為法や輸出先国の法律に従った対応を必ず行ってください。尚、ご不明な点は弊社販売部門にお問合せください。
- : 「安全データシート」の記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成していますので、使用原料の情報変更により本データシートの情報が変更される可能性があります。

米国 TSCA SNUR

- : 本製品は、米国の有害物質規制法（TSCA）の重要新規利用規則（SNUR）の提案規則のに該当する物質を含んでおります。米国環境保護庁（EPA）により SNUR が最終決定された場合、本製品およびその混合物は、使用や廃棄に制限が生じます。米国へ輸出する場合は、EPA の指示に従って下さい。提案 SNUR の詳細は、連邦公報「Federal Register / VOL.62, No.123 / Thursday, June 26, 1997, page 34421」を参照してください。